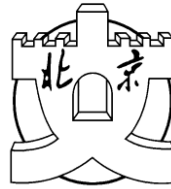


# かささぎ



北京日本人学校  
学校通信 第6号  
令和2年10月30日  
校長 栗本 和明

2学期の登校が始まってから10月上旬までの数週間、小学部4年生と6年生の授業を受け持ちました。毎日教材研究を行って準備を整え、3階の教室に足を運びました。子どもたちと話したり、互いの考えを交流したりすることで、「本校の子どもたちの特徴」を肌で「感じる」ことができました。(これまでも「子どもたちの様子をつかもう」と毎日必ず、全ての教室を見て回っていましたが、「授業者」として子どもたちと向かい合ったことで、新たな発見が多々！良い機会になりました)。

私が感じた「本校の子どもたちの特徴」は、日本で30数年間教師を務めてきた経験を裏付けとしているので、ある程度、客観性があると思います。ただし、小学部の2学年のみ、しかも、社会科という1教科のみの様子ですから、本校の小1から中3の9学年全員に当てはまるわけではありませぬし、他教科・他の活動では違う姿を見せると思います。そのことを留意しつつ読んでくださいね。「素晴らしいなあ」と感じた点を、以下、書き連ねてみます。

- ① 学習内容に対し、反応がとても素直。資料提示をすると「へえー、知らなかった!」「すごいね」「もっと調べたいです」「楽しかった」という声があがる。例えば小4で「避難所に集まる人々」の写真資料を提示した際、悲しそうな顔や困った顔の人たちの様子を見て、心から心配し、気持ちに寄り添う言葉が次々にあがる。避難所運営を考えたり地域の防災への取り組みを調べたりする学習にスムーズに進めることができる。
- ② 曇りのない(余計な知識がじゃまをしない)目で資料に立ち向かえる。日本の子どもたちでは気づけないことにも目が届く。例えば小6「元寇」の学習で「元の兵士はブーツのようなものを履いている」と気づくことができる。とても寒い北京(※元の都である「大都」は現在の北京です)の冬を知っているからなのか、日本と中国との違いを日常的に感じているからなのか?「騎馬での戦いに適している服装だ」という考えに至ることで、世界史上まれに見る大帝國を築いたモンゴルの日本侵略を、世界史的・俯瞰的に考えるきっかけになる。
- ③ 友達同士、互いの意見に真剣に耳を傾けることができる。これは、担任の先生による(互いの考えを尊重し合おう等といった)日々の粘り強い指導の「たまもの」と考えている。

素晴らしい、と感じると同時に弱点かも?と感じた点もあります。「分からない」とか「できない」「苦手だ」ということへの危機意識の低さです。子どもは、時には学習集団の中で、友達と競い合うことが必要です。同時に、常に自分自身を叱咤激励して努力することが大切です。「分かるようになりたい」「できないことが悔しい」「苦手を克服したい」という気持ちは、自分自身を高めていく意欲になります。言葉が良くないかもしれませんが、「食欲さ」とか「ガツガツ学ぶ姿勢」も必要なのかな、と思いました。

国内のどの学校と比べても、本校の先生は子どもたちに寄り添い、大切に支援していると自負しています。今後、これまで以上に「学習のめあて」や「活動の目標」を分かりやすく示すことで、子どもが自分自身で学習を振り返り、次の活動に立ち向かえるように工夫していきたいと考えています(中学部では日常的に行っている「自己評価基準を明確に示す」という取り組みを、小学部でも、さらに意識して工夫できるとよい、ということです)。そうすることで「〇ができるようになりたい。もう少し練習しよう」「〇以上正解したい。家庭でも復習しよう」という姿が、さらに見られるようになれば、と思います。

本校の子どもたちがもっている素晴らしさをさらに伸ばし、課題を克服していくことができるよう勢揃いした28人の教師集団全員で取り組んでいきたいと思ひます。

保護者の皆様には、今後ご理解・ご協力をお願いいたします。

校長 栗本 和明

# 新しいことにチャレンジ。成長中！

## 小学部5年生

5年生になって新しく始まった家庭科。玉結びや玉どめ、なみ縫いなど手縫いの基本を学びました。1針1針、集中して縫い、フェルトの小物作品を仕上げることができました。また、外国語の時間には、学習した英語を使って仮想の公園や遊園地などへの道案内を、オンラインの映像を通して1人ずつ行いました。家族や友達のために作りたい。いつか出会う人のために道案内ができるようになりたい。周りの人のことを思いやるなど、1人1人が心も体も成長中です。委員会やクラブでも下学年の見本となる活躍をしてくれることでしょう。



# たてわり班オリエンテーリング

## 小中連携部

10月23日（金）にたてわり班オリエンテーリングを行いました。全校遠足の中止を受け、小学部1年生から中学部3年生で編成されたたてわり班で、何か活動できることはないかと考えてできた「新しい試み」でした。

活動はすべて校内で行いました。子ども達はハチノコという縄跳び運動をしたり、玉入れやなぞなぞなどのオリエンテーリングをしたりと班で協力して楽しんでいました。始めは緊張していた様子が見られましたが、活動を通して学年の違う班員同士が仲良くなることができましたようです。

たてわり班活動はまだまだスタートしたばかりです。これからもハチノコ練習などを通して班の絆を深めていってほしいと思います。



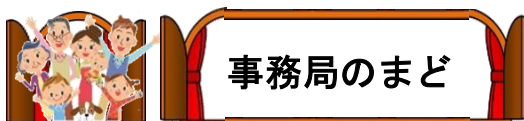
「玉入れ」



「はじめの一步！ハチノコ」



「ゴールイン！」



### 事務局のまど

今月は、気分を変えて芸術の秋に「書道」の話題。3か月ほど前、ふとしたきっかけから書道を始めました。筆を持って集中する時間は、仕事や生活から離れる良い気分転換になります。お稽古でよく先生（日本の方）が言うのが「学校の書写ではこう教える」とか「ここまでは教えない」。学校で教員と書道の話になり、図書室にある小学生向けの書道の本で「収筆（筆の止め方）」を見て納得したりするのも小さな楽しさや充実感があります。こうして考えると、日本の学校教育の書道や音楽科、体育科、美術科は、人生にわたる興味のタネ（素養というのでしょうか）をもらう良い機会なのかもしれません。学校の子供達にも、数十分の授業のなかで楽しいことを見つけてもらい、それが遠い未来にでも生活のいろどりになることを祈ります。

（事務局長 倉片）

# たてわり 何人？

### 小学部

令和2年10月30日現在

	男子	女子	合計		男子	女子	合計
1年	6	10	16	4年	12	17	29
2年	18	22	40	5年	8	10	18
3年	15	14	29	6年	13	12	25
				小総計	72	85	157

### 中学部

1-1	6	11	17				
2-1	12	7	19	中総計	24	24	48
3-1	6	6	12	総合計	96	109	205